

# 令和4年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
資格：教授  
氏名：森長 正樹

研究課題名	運動における予備動作がパフォーマンスに与える影響
研究目的及び研究概要	<p>(1) 研究の目的 走高跳とは、助走をつけて片足で踏み切り、鉛直方向へどれだけ跳べたかを競い合う種目である。競技会では、競技者は試技開始の高さを選択し、必要な高さを選び、最高の試技・最高の跳躍が達成できるように判断し修正をしなければならない。このような特徴を持つ走高跳の予備動作である助走に焦点を当て、運動構造から運動感覚に焦点を当て、検討していく。</p> <p>(2) 研究の方法 研究方法として、被験者は日本陸上競技連盟に所属し、走高跳を専門とする競技者とする。その競技者に対して試合結果を参考しながら競技者が感じる「至適な助走速度およびスキル」について半構造化面接の手法を用いてインタビュー形式で内省調査を行う。また、これまでに試合結果をもとに、試合の構造分析を行い、半構造化面接で得られた内容について客観的な検証も行っていく。</p>
研究実績の概要	<p>本研究内容は令和4年度より新たに設定した研究テーマである。そこで令和4年度は、本研究内容を遂行できるような環境整備および参考文献などの収集を行うことを行った。具体的には、フィールド実験時に使用する実験消耗品、インタビューなど行う際に記録を行う媒体およびメディアの購入と予備実験の実施、図書館や他学部に赴き、参考となる文研の収集などである。以上の結果、予備実験の成功および研究および実験環境が整備されたことで、今年度から本実験およびその成果として学会発表や研究論文などの執筆が行えると想定している。</p> <p>予定としては、令和5年度の東京体育学会、日本陸上競技学会などで成果物として研究発表などを行っていく予定である。</p>
研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	